

佳作

## 僕のおじいちゃん

茨城県  
龍ヶ崎市立八原小学校六年

加藤 大地

僕のおじいちゃんは、二年前の夏に猛暑を記録した、岐阜県多治見市（たじみし）の隣、愛知県春日井市（かすがいし）に住んでいます。そして、僕の家初めて来てくれた時、大きいおばあちゃんが畑で育てた、朝摘みたてのたくさんの母を、わざわざ新幹線に乗って届けてくれたのです。そのおいしさにビックリした僕は、それ以来、「苺じいちゃん」と呼ぶようになったのです。

そんな中、妹は最近までおじいちゃんの名字を「苺」だと思っていたらしく、それを聞いた時、すごくおかしく思いました。

苺じいちゃんは、毎年、僕の誕生日には必ず、僕の大好物を送ってくれます。そして、必ず電話で「お誕生日おめでとう」と言ってくれます。それに、両親には内緒ですが、欲しいものがあつた時に相談すると、いつも両親と交渉してくれます。両親にとつて、苺じいちゃんはとても恐い存在のようで、苺じいちゃんは、僕にとつては、とても強い味方です。

しかし、お母さんは「昔のじいちゃんは、とても恐くて厳しかった。」と言っています。一番の思い出は、中三の三者進路面談の時に、スーツにパンチパーマとサングラス姿だったから、クラスの友達から「ヤクザが来た！」と呼ばれたそうです。当時マジメだったお母さんは、誤解されて、とても困ったそうです。僕はその話を聞いた時、今とは全く違うので、想像できませんでした。

そんな苺じいちゃんですが、僕ととても関係している

ところがあります。それは、家族関係の中で、苺じいちゃんと僕だけが同じ血液型・O型なのです。そして、苺じいちゃんと好みが似ていて、炊きたてのご飯・お味噌汁・卵焼き・漬物があれば幸せなのです。

先日、僕の誕生日プレゼントのお礼に、地元のおいしい新鮮な卵をたくさん送ってあげたら、とても喜んでくれました。

また、お刺身やお寿司が大好きな僕のために、一年と三年の時に、わざわざ苺じいちゃんの故郷・鳥根県出雲市（いずもし）に招待してくれました。そして、苺じいちゃんが船に乗って、海で採ってきた新鮮な魚を、苺ばあちゃんが料理して、ごちそうしてくれました。

家のすぐ裏には海があるので、朝夕の二回歩いて海水浴に行きました。また、朝から新鮮なお刺身とあら汁が食べられたので、本当にぜいたくだと思いました。

そんな苺じいちゃんは、昔、野球をやっていたようで、僕が運動も得意なのも、苺じいちゃんに似たのかもしれない。僕が大きなケガをした時も、いつも苺じいちゃんが励まして、アドバイスしてくれました。今、僕が楽しく勉強や運動が出るのも、苺じいちゃんのおかげだと思っています。苺じいちゃん、いつまでも長生きしてください。僕は、これからも、勉強や運動を頑張りますので、いつまでも応援して下さい。